

広 報

家畜衛生ますだ

令和4年10月

発行・編集

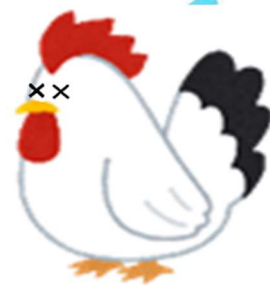
益田家畜保健衛生所（西部農林水産振興センター益田家畜衛生部）

〒698-0007 益田市昭和町13-1 益田合同庁舎1階

TEL 0856-31-9730 FAX 0856-31-9739

高病原性鳥インフルエンザの発生予防について

令和4年10月28日、岡山県で国内家きん飼養農場においては、今シーズン初となる高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）の発生が確認され、同日北海道においても発生が確認されました。昨年は11月10日に秋田県で国内家きん飼養農場におけるシーズン初のHPAI発生が認められており、今シーズンはこれよりさらに早い発生となっています。また、今後は渡り鳥の飛来するシーズンとなりますので、HPAIの発生により一層の警戒が必要です。



高病原性鳥インフルエンザをはじめ、豚熱（CSF）、口蹄疫といった**家畜伝染病の発生リスクを抑えるためには、飼養衛生管理基準の遵守が不可欠です。人、車両、物品、飼料や水、野鳥を含む野生動物等を介した飼養家畜への感染を防御すること、異状が確認されたときには、直ちに連絡報告することが重要となります。**家畜の飼養者の皆様におかれましては、日々の多忙な業務の中、基準を遵守するためご尽力いただいているかと思いますが、**今一度、農場の飼養管理について再点検をお願いいたします。**

国際郵便における肉製品等の国内持ち込みについて

海外から悪性伝染病を国内に侵入させないために、ベトナムなど、口蹄疫・アフリカ豚熱・鳥インフルエンザ等の発生地域からの**生肉、加工・調理した肉、ハム・ソーセージ等の肉製品は法律で輸入が禁止**されており、国際郵便でも持ち込めません。外国人技能実習生の家族等が実習生宛に送ってくる国際郵便の中に、輸入禁止の肉製品等が入っている可能性があります。国際郵便が届いたら、肉製品等が入っていないことを実習生に確認するようお願いいたします。また、実習生の家族等が肉製品を送らないように、実習生に周知をよろしく願います。



国際郵便の例



禁止品の例



第12回全国和牛能力共進会について

令和4年10月6日～10日に鹿児島県で開催された第12回全国和牛能力共進会において、西いわみ管内から出場した、水津牧場の「みどり」号は第2区（若雌の1）にて優等賞16席（33頭中16位）の成績を収めました。その他、島根県勢からは、第6区（総合評価群）では優等賞3席（肉牛の部では第1位）を獲得する等、次回の大会につながる好成績を収めました。本大会に参加された皆さま、お疲れ様でした！！



【水津誠司さんと「みどり」号】



【第2区審査の様子】

島根県代表牛 成績一覧

第1区（若雄）	1等賞2席
第2区（若雌の1）	優等賞16席
第3区（若雌の2）	優等賞14席
第4区（繁殖雌牛群）	1等賞2席
第5区（高等登録群）	1等賞1席
第6区（総合評価群）	優等賞3席
第7区（脂肪の質評価群）	優等賞2席
第8区（去勢肥育牛）	優等賞2席
特別区（高校及び農業大学校）	5席、特別賞



皆さん、お疲れ様でした！！

益田家畜衛生部参加者コメント

全国から集まった出品牛はどれも素晴らしい牛ばかりでしたが、その中で島根からの出品牛が好成績を残せたことはとても嬉しいです。現地で貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました！（秀島主任獣医師）

人生初の全共参加でした。昨年まで畜技Cで全共対策に関わっていたこともあり、島根県勢の活躍に心がおどりました。5年後の北海道でさらなる好成績を残せるように、皆さんと一緒に頑張っていきたいと思います！（永海獣医師）



【西いわみ地区の農家のみなさんと「みどり」号】

牛の繁殖コラム（第1回）

繁殖巡回のときに、「繁殖の検診はどういうことを調べているの?」「どういう目的で薬を注射しているの?」といったご質問を受けることがあります。

せっかくですので、広報のスペースを頂き、牛の繁殖の基礎的なことについて何回かに分けて解説してみたいと思います。

牛は一般的に21日周期で発情を繰り返しますが、どのような仕組みでそうなっているのでしょうか。

黄体：中は組織が詰まっている
最大2.5cmほどの大きさ
小さな突起がある

卵胞：中には液体が入っており
卵が中で発育している
最大1cm強ほどの大きさ



牛の発情周期や、種付けした後の妊娠維持などのコントロールは、卵巣にある**卵胞**および**黄体**が大きな役割を担っています。

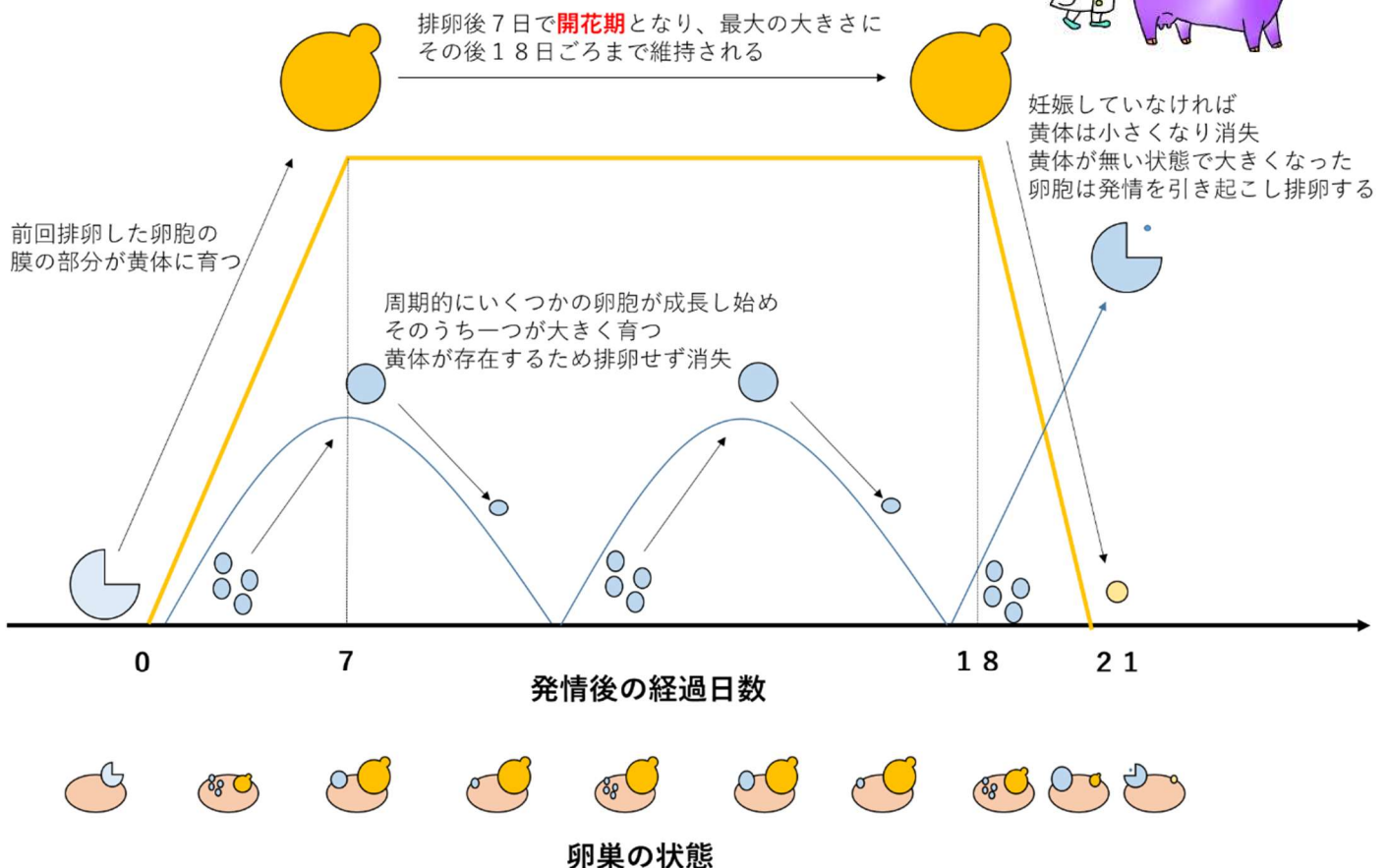
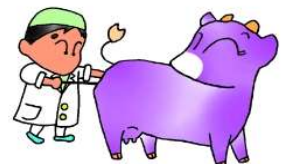
卵胞の中には液体が溜まっており、その中で卵が発育しています。卵胞が大きく成長すると牛は発情し、卵胞が割れて排卵します。

黄体は排卵した後の卵胞の膜が変化して出来る組織です。黄体は発情を抑制し、妊娠を維持する役割を果たしています。黄体が存在すると、卵胞は十分に成長せず、発情が起こりません。

種付けにより妊娠した場合、黄体はそのまま分娩の直前まで残ります。一方で妊娠していない場合、排卵後18日頃から急速にしぼみ、無くなります。

こうして黄体がなくなったときに、卵胞が大きく成長することが出来るようになり、20~21日目に発情と排卵が起こります。このようにして、牛は21日周期で発情を繰り返しています。

次回は、繁殖の治療にも活用する**ホルモン**について解説したいと思います。



子牛の感染性下痢対策について

子牛は様々な原因で下痢をすることがあります。主な原因としては①**感染症**②**消化不良**③**環境要因**の3つがあり、多くの場合はこれらが重なることで下痢をします。今回はその中でも①**感染症**に注目して、特に発生の多い子牛の下痢症について表にまとめましたのでご参考ください。ただし、この表はあくまで典型的な症状です。**異常を感じたらすぐに、かかりつけの獣医師にご相談ください。**

原因	細菌			寄生虫	
	大腸菌	サルモネラ	クロストリジウム	コクシジウム	クリプトストリジウム
実際の写真					
便の性状	泥状～水様便	泥状～水様便	泥状～水様便 偽膜形成	泥状～水様便 偽膜形成	水様便
血液の混入	なし	あり	あり	あり	なし
におい	腐敗臭	腐敗臭・生臭い	生臭い	生臭い	なし
発熱	軽傷の場合は39.5前後。 重症の場合は低体温。	40°C以上の発熱。	40°C以上の発熱。	39.5°C前後の発熱。	重症の場合は低体温。
発症時期	7日齢以内	1ヶ月齢以内	離乳前後	3週齢以降	7日齢以内
特徴	暑い時期に発生が多い。 脱水が顕著。 他の原因との混合感染が多い。	通年発生。 成牛でも発症。	暑い時期に発生が多い。 突然死。血が固まらない。 コクシジウムと混合感染により、偽膜（写真のようなソーセージ状の便）を排泄。	通年発生。 集団発生。 クロストリジウムと混合感染により、偽膜（写真のようなソーセージ状の便）を排泄。	寒い時期に発生が多い。 他の原因との混合感染が多い。
原因	ウイルス		栄養性		
	ロタウイルス	コロナウイルス	ミルクの消化不良		
実際の写真					
便の性状	水様便	水様便	白い泥状		
血液の混入	なし	あり	なし		
におい	なし	なし	ミルク臭		
発熱	39.5°C前後の発熱。	39.5°C前後の発熱。	なし		
発症時期	2週齢以内	7日齢以内	離乳まで		
特徴	寒い時期に発生が多い。 脱水が顕著。 他の原因との混合感染が多い。	寒い時期に発生が多い。 成牛でも発症。	ストレスなどで消化機能が弱まると発症。		

【対策について】

- ①**初乳を十分に飲ませましょう**：十分な初乳を飲ませる事で子牛は様々な感染症に抵抗を持ちます。下痢対策だけでなく子牛の健康の為にも大切です。
- ②**清掃・消毒をしましょう**：病原体は「野生動物・人・物」等に付着することで農場に侵入します。定期的な清掃・消毒で対策しましょう。
- ③**ストレス対策をしましょう**：子牛はストレスで弱り、病気に感染しやすくなります。特に「暑さ」「寒さ」「密飼」等は避ける様にしましょう。
- ④**便を観察しましょう**：下痢症は、早期発見・治療がとても大切です。上記表を参考に子牛の便に異常がないかこまめに観察しましょう。